

Beyond KUSS , 2020 !!

卒業後のステージ 先輩たちの様子(その6)

右表は卒業生の出願パターンと受験件数を示しています。受験件数は出願件数とは異なり、合否判定件数です(出願したが未受験の場合は含みません)。

1人あたりの受験件数が減少していることがわかります。1回生と比較すると、5回生は1.8件減少し、最も少なくなっています。男子だけで比較すると2件も減少しています。「第1志望」を大切にしたい出願・受験状況の場合、2件台になります。残念ながら、「第1志望」を大切にしたい出願のレベルには遠いです。

国公立専願率は3回生が高く、それ以降は15%前後で推移しています。1・2回生と異なっているのは、No_9(6/13)で紹介したように、国公立大学推薦・AO入試への出願・合格状況の転換と関係があります。3回生を機に私立大学専願率も低下します。

まだまだ十分ではありませんが、「第1志望」を大切にしたい出願・受験を考える生徒が増えてきているのは間違いありません。6回生はどんな出願・受験に向かうのでしょうか。

省略

模擬試験から5週間

5回生以降、模試受験パターンを変更しています。主な変更は、4・5年時の受験回数を減らしている点、6年をマーク式中心にしている点。これが進路状況にマイナスの影響を与えていないことは、「卒業後のステージ 先輩たちの様子」で説明しています。

右表はベネッセ主催の模試の受験状況の一部です。4回生まではベネッセの模試を3年間で10回受験していました。5回生は5回、6回生は4回です。6年6月(5月末実施もあり)を過去の卒業生と比較するとS・A・Bの評価人数の比率は、5・6回生が非常に高いことがわかります。

模擬試験は受験回数が多いことがいいのではなく、目的ある受験と復習が大切になります。

国数英総合成績の学習到達ゾーンS・A・Bの場合、国公立大学に合格できる可能性が高くなります。それではなぜ合格者がそれよりも低いのでしょうか。主な理由は2点。1つは、5教科を学習することに自信がもてず、あきらめてしまう。もう1つは、「合格可能性の高い大学」よりも「学びたい大学」への出願を優先するからでしょう。

模擬試験から5週間経過し、夏季休業開始まで4週間となりました。夏季休業に突入するまでに「学び」の芽生えがあることを期待します。

省略

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉

『Beyond KUSS , 2020 !!』など進路課が発信する情報の一部をHPに掲載しています。

模擬試験得点度数分布表

模擬試験の結果が返却されると、偏差値や合格可能性判定が気になると思います。しかし、それらのことを気にしている人たちは、実力向上・安定は厳しいでしょう。

大学受験は基本的に素点(得点)で合否判定が行われます(選択科目間の平均点に一定レベル以上の差が発生した際、私立大学を中心に補正措置をとる場合があります)。だから、偏差値ではなく素点(得点)を注視する必要があります。正解できなかった問題、そしてマーク模試では偶然得点できてしまった問題を十分に復習する必要があります。また、マーク模試ではマークの読取状況を確認しなければいけません。ダブルマークはないか、自分のマークと読取結果が一致しているか、必ず確認しておきましょう。

模擬試験は復習が大切です。受験直後、個人成績表返却時、入試前、最低3回の復習ができるようになります。

省略